

発行所

公益社団法人 全日本仏教婦人連盟
〒151-0051 東京都渋谷区 千駄ヶ谷4-5-10-205
TEL 03-5772-0677
FAX 03-6434-0184
URL http://jbwf.jp

沙羅の樹

Saranoki

No.9

2018年春号
4月1日発行



二月五日(月)、公益財団法人全日本仏教尼僧法団の笹川悦導理事長のご自坊である東京都新宿区の曹洞宗観音庵の本堂において、笹川理事長御導師のもと10人の尼僧様の御出仕により、修正会法要が厳粛に執り行われました。従来はご来賓の皆さまとの年始のご挨拶を兼ねた修正会を厳修いたしておりましたが、本年度より会員同士また尼僧法団との交流をはかるための法要と懇親会として営まれることとなり、合わせて60人が参加をいたしました。美味しいお抹茶のご接待のあと、本堂で般若心経を全員で誦誦し、東伏見見子会長、加用稔子副会長、岡野郷子相談役、林恵智子顧問、末廣・篠田正副理事長が代表焼香をし、法要後に笹川理事長が挨拶をされました。

『道元禪師がお釈迦さまの教えに出会えた無上の喜びを詠った和歌「嬉しくも釈迦の御法にあふひ草 かけても外の道をふまめや」を引用しながら、「同じ仏教徒として、お釈迦さまの教え、お祖師さま方の教えに出会えたことはあり難いこと。いのちの尊さ、精進、努力という信仰の偉大さ、報恩感謝という美しい心を学ばせていただいている」と説き示され、「新しい年を迎えるにあたり、希望や目標をもって共に釈迦さまの教

えのもとに結集して歩んでいただければと思います」と呼びかけた。(仏教タイムス2018年2月8日付け引用)
法要後は昭和初期の芸術の粋が結集した、レストラン小笠原伯爵邸に移動して懇親会を開催しました。初めに東伏見会長が挨拶で、笹川理事長の「修正会は前年を反省して新年の幸せを祈願する法要である」という言葉にふれ、これからの新しい一年への思いを述べられました。笹川理事長に改めて一言いただいた後、参加者全員の自己紹介や近況報告をしてお楽しみのかじ引きなどで、会員同士の親睦はより深まり、加用副会長の挨拶後に和やかに閉会しました。

平成30年 修正会 開かれる

二月五日(月)、公益財団法人全日本仏教尼僧法団の笹川悦導理事長のご自坊である東京都新宿区の曹洞宗観音庵の本堂において、笹川理事長御導師のもと10人の尼僧様の御出仕により、修正会法要が厳粛に執り行われました。従来はご来賓の皆さまとの年始のご挨拶を兼ねた修正会を厳修いたしておりましたが、本年度より会員同士また尼僧法団との交流をはかるための法要と懇親会として営まれることとなり、合わせて60人が参加をいたしました。美味しいお抹茶のご接待のあと、本堂で般若心経を全員で誦誦し、東伏見見子会長、加用稔子副会長、岡野郷子相談役、林恵智子顧問、末廣・篠田正副理事長が代表焼香をし、法要後に笹川理事長が挨拶をされました。



私たちの活動報告

各事業にご賛助及びご協力をいただき、ありがとうございます。

- ▼新入会員紹介
賛助会員 下村聖登(真言宗室生寺派)
正会員 日吉観・塚田稲子・金沢玲子・千葉紘子・山田真紀子・澤田雅子
▼賛助金にご協力の方々
西福寺(浄土宗) 眞性寺(真言宗豊山派) 正覚院(浄土宗) 龍光寺(真言宗室生寺派) 如宝寺(真言宗豊山派) 法蔵院(天台宗) (株)経営総合研究所 神奈川県仏教会
▼ご芳志を頂きましたの方々
笹川悦導 川名親恵 目黒順導 東伏見見子 加用稔子 岡野郷子 小峰喜和子 鈴木トヨ子 末廣久美 篠田節子 岩脇孝子 松井百合子 梨本三千代 大橋百合子 長尾陽子 安井豊子 海老塚るり子 小峰みな子 日比野郁皓 桶屋良法 御嶽由美子 花岡眞理子 小峰立丸 佐々木公子 木南鈴子 本多端子 米田陽子 長岡道子 静岡県仏教婦人会 仏教情報センター
▼福祉事業・里親運動・あおぞら奨学基金の方々
岡野郷子 木南鈴子 後藤陽子 丸山弘子 無憂樹の会
▼花の種運動にご協力の方々
末廣久美 岩脇孝子 松井百合子 本多端子 木南鈴子 河原時子
▼タオル運動にご協力の方々
岩脇孝子 小梶洋子 寂光院 金嶺寺
▼「全佛婦」誌代にご協力の方々
末廣久美 大橋百合子 花岡眞理子 海老塚るり子
▼その他ご寄贈協力者(修正会景品)
末廣久美 篠田節子 岩脇孝子 松井百合子 大橋百合子 梨本三千代 桶屋良法 日比野郁皓 丸山弘子 湯浅正江 釜石市はまなすの会(匂い袋)
▼写経運動にご協力の方々
【新豊院扱い】
篠田節子 磯部恵子 吉岡達 吉崎みゆき 出雲君美子 大石孝子 桜井才子 花田まさ子 花田照子 磯部悦子 植松園子 海野菊枝 加藤正子
【宝光院扱い】
大橋百合子 田中美恵子 上野雪子 柄澤元子 猪瀬三枝子 大橋聡衣 中澤恵子 浜野富貴子 山口ちい
【事務局扱い】
後藤陽子 村上和之 高崎悦子 横山俊子 吉田視知恵 岩脇孝子 高橋ふみ子 川村洋子
【第111回文化講座「写経会」参加者27名】
1月1日~3月25日(順不同・敬称略)

Calendar table with columns for month (1月, 2月, 3月) and dates, listing various events and their locations.

平成30年度年間計画 (平成30年4月1日~12月31日) table listing monthly activities and dates.

今年度の『文化講座』も様々なテーマで開催致します。皆様のご参加をお待ちしております。

第110回文化講座◎1月17日

「青年僧達と かたらう」

浄土
真宗の

浄土真宗東本願寺派 杉生大潤
本山東本願寺讃衆

日本には数多くの宗派があり、今回は浄土真宗の僧侶が講座を勤めさせていただきました。東本願寺から3名の僧侶が参加いたしました。天台宗天王寺の会場内で多くの参加者の方々と大変貴重なお時間を過ごさせて頂き、心より御礼を申し上げます。新年を迎え、心新たに仏道を研鑽する機会を得て、私なりに思うところをお話いたしました。参加された方々とお話する中で、宗教の成すべき役割について再確認をさせていただいたところです。

近年、宗教というところか他人事であったり、法事、葬儀やお墓などの仏事への感心に留まってしまう傾向があり、私どももか仏事があつての宗教のように感じてしまうことがあります。たしかに法事などの仏事で宗教を知るといふ機会を得るということも大変重要であります。しかし、現代に於いて最も優先されるべきところは、私たちの心のあり方や悩む心と、どのように向き合い続けていったらいいのか、また苦しみの中に選択肢として仏教の考え方を取り入れ、今にも壊れそうな心を、時には温め、時には輝かせて下さる仏さまの救済が、どんなに素晴らしいものであるかを、身近な人へ、またより多くの人々に伝えていくことができるか、ということではないかと考えます。



私たち浄土真宗の最も知られる教義に、煩惱即涅槃という言葉があります。悩み煩惱をそのままにしようと解決できていないではないかと思うかもしれません。煩惱を無くし心穏やかに過ごすという確かに聞こえがいいかもしれませんが、しかし何の悩みも苦しきもないということが果たして実現するのでしょうか。煩惱ひとつが、私の苦しき一つこそが、実は私を浄土へ必ず救い取るという阿彌陀仏の誓いであり、願いであったのだと聞こえてきた時に、やっと始めて人はその苦しき一つが目当てとされ、私を救おうと願ってくださる阿彌陀仏により、願う心そのままに、約束された命の喜びをもって生きることができるとは、浄土往生という、仏が救

第111回文化講座◎2月21日

講師⇒宮澤正順先生

「写経の心」に参加して

日比野郁皓

うと誓われたこの命の旅路の先が、確かなことであるとするならば、日々の苦しきも喜びとなり、私が私として大いなる命を生きていくのだと、さらには何気ない普通の一日が尊い一日であったと思うこともできるのではないかと考えます。多くのの人々と共にこの尊いお念仏の教えを喜び、そしてそこに寄り添うことが出来ればと思う次第です。

演、日本大学、駒澤大学の講師、大正大学教授を経て、現在は埼玉工業大学特任客員教授、浄土宗西福寺ご住職であられ、中国の三教、道教を中心とした研究を専門とされる文学博士でいらつしやいます。以下宮澤正順先生のお話をご紹介します。

仏教と道教―中国の三教とは釈迦の仏教、老子の道教、孔子の儒教ですが、私の専門の道教におきましては、道徳、先祖供養、親孝行などが教えの中心になっています。仏教では三界万霊、全ての世界の霊を供養することが大切ですが、道教においては、その家の先祖を大切にするという違いがあります。道教では「身体髪膚これ父母に受く、あえて毀傷せざるはこれ孝の始めなり。」といったような、父母の恩、自然の恩に関する教えが重要視されますが、現代社会においては特にこのような教育が必要だと思えます。

写経―さて、写経といえは薬師寺。薬師寺の管長、

高田好胤師は昭和二十四年より十八年間副住職を務められました。その間のご法話は評判高く修学旅行の学生さんたちにとっても人気がありました。管長になられた後、薬師寺の復興事業のために写経による勸進を行い、その数は六〇〇万巻にのぼったと云われています。

口頭伝承―書写経典・誦経、即ち経典を読むことはそのことよって幸せが得られるといひます。読むとは、心で読む、眼で読む、口で読むという三通りの読み方があります。経典は初め暗唱によって口頭で伝承していたようですが、次第に書写されるようになっていきました。経典受持十種法には書写、供養、流伝、諦聴、自読、憶持、広説、



口誦、思惟、修行となつています。五世紀の中頃に、写経の一行の字数は十七文字と定着し、それより短いものは偈文とされました。十七文字のいわれは、一、陰陽など組み合わせる八種類の記号を作り、自然界人間界の諸現象を表すものを八卦という。二、陰陽が二組合わさつたものを四象という。三、木火土金水の五元素を五行という。これを合計すると十七になります。

写経の心―中国唐代の著名な書道家で政治家でもある柳公権は、「心正則筆正」（心正しければ筆正し）と書道倫理を述べています。写経においては、洗手、嗽口、塗香、合掌、読誦、浄衣、すなわち身も心も衣服もきちんと整え、清めて行うことが写経の心がまえなのです。

お話の後、天王寺副住職お導師により、参加者全員で般若心経をおとなえしました。舍利礼文と、十句観音経の写経をし、充実した時間を過ごすことができました。

ひと粒の種

花の種運動

会員有志の手作業で皆様のお手元に花の種をお送りすることが出来ました。皆様からご意見・感想等が届きましたので一部紹介いたします。

- 小学校の児童に配布しております。子どもに分りやすいリーフレットの内容で、親子で育てることができる花の種は、青少年教化活動の大きな助けとなっております。
- 拝観に来られた皆様方に好評で喜んで頂いております。
- 幼稚園の卒園児に「きれいな花を咲かせてね。」と花の種を送ることができ、また新入園児を迎える際にも渡しております。
- 配布して大変喜ばれています。毎年継続されることを希望いたします。

ご意見ありがとうございました。

リーフレットの間に花の種をいれて、ホチキスでパッチン!



お知らせ

❖ 第112回文化講座「花結び講習会」

【講師】花結び正園の会
横井寿園 師範
【日時】5月16日(水) 13時から
【会場】慈母会館
新宿区大京町31



❖ 平成30年度総会

【日時】6月11日(月) 11時から
【会場】曹洞宗大本山總持寺
神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-1

❖ 第113回文化講座

「京都古寺めぐり」
～聖護院門跡・真言宗御室派仁和寺～
【日時】6月27日(水) 京都駅9時30分集合



❖ 第65回大会

【日時】10月10日(水) 11時から
【会場】東天紅 上野店
東京都台東区池之端1-4-1

*詳細につきましては、後日ご案内いたします。